

自由論題7、報告1

報告テーマ

中国・習近平の政治認識とリーダーシップ：地方指導者時代の著作内容を手がかりとして  
“Xi Jinping’s Political Thought and Leadership in the Local Cadre Period”

氏名(所属)

鈴木 隆(愛知県立大学)  
Takashi SUZUKI (Aichi Prefectural University)

要旨(800字程度)

本報告では、中華人民共和国の最高指導者である習近平に焦点を当てて、彼の地方指導者時代(1982～2007年)について、地方の下級党組織の役人から官僚政治家としてのキャリアをスタートさせた習近平が、権威主義体制の巨大な官僚機構の中で出世の階段を上にしたがい、自身の政治認識やリーダーシップをどのように発展させてきたのかを、主に政治思想史の観点から分析する。

周知のように、2012年に中国共産党総書記に就任して以来、習近平は、中国の党・国家・軍において、自身への個人集権に邁進している。今日では、習近平一強体制の下、鄧小平時代から漸進的に整備されてきた最高指導部の集団指導体制は、もはや形骸化しつつある。このことは、従来の制度論中心の研究史の流れに対し、それを前提としつつも、中国政治の現状に即した人物研究復権の必要性を示唆している。

また、習近平率いる現指導層は、前任者たちとは明確に異なる特徴をもっている。彼らは、1949年の中華人民共和国の建国後に生を受け(習近平は1953年生まれ)、改革開放政策の開始とともに、党と政府の官僚政治家として経験を積み、指導部入りした初めての世代である。事実、習近平は、中国の行政級(県→地区→市→省→中央)に応じて、一步一步、昇進を重ねてきた。これは、①中国国民党との内戦や日中・朝鮮・中越戦争などの対外戦争の遂行を通じて、カリスマ的指導者の地位を獲得した毛沢東や鄧小平とも、②1989年の天安門事件後、鄧小平の鶴のひと声で、党総書記に抜擢された江沢民や胡錦濤とも異なる。習近平はいわば、既存の政治体制の下で純粋培養された初めての最高指導者なのである。

以上のような背景に鑑み、本研究では、中国政界での影響力を今後も長期的に維持する見込みが高く、かつ、中国の今後の指導者候補の有力資格とみられる「フルセット／トータルキャリア型リーダー」の先駆けでもある習近平について、(a)約25年間の長きにわたる地方指導者時代(任地は河北省、福建省、浙江省、上海市)に、習近平がいかなる政治的事績を残したのか、(b)異なる任地と職位における政治認識やリーダーシップの特徴とその変化、それらと総書記就任後との連続性や断絶性はどうか、などを分析する。これにより、「カリスマなき強権指導者」である習近平の「権力と権威の原始的蓄積」(徳田教之氏)の過程を考察する。